

【「見える!!地域連携」プロジェクト】学生ニーズの可視化

学生による公募型地域連携活動への助成事業「学まちチャレンジ!プロジェクト」

本事業は、本学学生から応募される主体的な地域連携活動に対し助成を行うものです。

学生の地域社会における多様な学びを支援し、自主性・企画力・課題解決能力・コミュニケーション能力を培い、その活動をもって、地域貢献や大学活性化、学生文化の向上につながるよう実施するものです。

募集対象 地域社会への貢献を目的とした取り組み（対象地域は京都市内に限る）

応募資格 本学の正規学生（学部生、大学院生）で原則3名以上のグループ

2022 年度採択団体一覧

NO.	チーム名	プロジェクト名	概 要
1	AVO (アボ)	京野菜の普及活動	山科なすを中心とした京野菜の魅力をもっと大勢の方に知ってもらい、京都全体で京野菜を盛り上げていくため、京野菜普及のポスターやチラシ作成、イベント開催などを行うプロジェクト。
2	えしかるず橘	「山科エコバッグ」で山科地域をもっと楽しく!美しく!	「エシカル消費」をテーマに山科地域における地域の魅力を再認識してもらうとともに住みやすいまちの担い手となってもらえるような啓発活動としてエコバックワークショップを実施するプロジェクト。
3	OSJ 橘	楽しくしっかり学ぼう!!	手で字を書く機会、特に墨と筆を使う機会は極端に減っていく中で、子どもたちに墨と筆で字を書く楽しさを感じてもらうための書道体験会を実施するプロジェクト。
4	京都橘大学図書館情報学研究会 (略称: キットケン)	京都市山科図書館開館 70 周年☆ アニバーサリー・サポートプロジェクト	山科地域の子育て世代および子どもたちを対象に、お話の世界や本の魅力を様々な形式の表現で伝えるイベントの実施や「大学生がおススメするブックリスト」制作で、本を通じ、地域とつながりをもつプロジェクト。
5	京焼・清水焼広め隊!	京焼・清水焼の魅力を発信しよう! 一箸置き絵付けワークショップという可能性をー	京都の伝統産業である京焼・清水焼を少しでも知る機会を持ってもらうために、主に京都を訪れる観光客や修学旅行生に向けたパンフレットの制作、箸置き絵付けワークショップを開催し、伝統産業の振興につなげるプロジェクト。
6	スポーツリハビリテーションサークル	中学校運動系クラブの中学生の怪我予防を行おうー運動系クラブに出向きケガ予防の出張出張授業	山科地域のクラブ活動をしている中学生に対し、自主的に実施することのできるストレッチやトレーニング、テーピングの指導を行い、怪我を予防することで、成長期の選手の未来を支えるプロジェクト。
7	まちづくり研究会	映画・レコード観賞会 ～あの頃の思い出をもう一度語ろう!～	参加者全員で映画・レコードを鑑賞し、観賞経験を共有することをおとしてコミュニケーションを図り、高齢者の居場所づくりについてのニーズを把握するプロジェクト。
8	和太っ鼓たちばな	和太鼓をドンドン広めよう!	地域の子どもから高齢者を対象に、和太鼓体験会や太鼓づくりワークショップを開催し、和の文化である和太鼓を知り、楽しんでもらうプロジェクト。

外部機関との連携型プロジェクト

NO.	連携機関	概 要
1	山科区役所	山科区の課題の一つである人口流出に対して、山科地域の景色や人にフォーカスし、動画として魅力を発信するプロジェクト。
2	京都信用金庫山科支店	京都信用金庫のネットワークを通じて、山科地域の魅力ある企業や産業をPR するマルシェを実施し、山科地域の地域活性化を目指すプロジェクト。
3	醍醐いきいき市民活動センター	醍醐周辺地域の子育て世代の交流を目的としたモノづくりイベントを実施し、コロナ禍における失われたつながりをどのように取り戻すかを考えるプロジェクト。

■学まちチャレンジ!プロジェクト

京野菜の普及活動

報告: AVO (アボ)

プロジェクト内容

グループ名「AVO」には「area（地域）に対してvitalityをもってorganize（組織）していこう」という思いが込められています。活動を検討する中で「京野菜」に着目し、普及したいと考えました。まずは京都市産業観光局南部農林振興センターや山科なすの農家さん、九条ねぎの栽培、販売を行う「こと京都株式会社」からお話を伺いました。そこから私たちはイベント開催をすることで地域の方々や学生に京野菜という存在を知ってもらいたいと考えました。無印良品京都山科にご協力いただけることとなりイベント開催が決定しました。

イベントは店舗内で京野菜を使った寄せ鍋を炊き出しスタイルで実施しました。多くの方に来てもらうために京都橘大学内でのチラシ掲示やSNSを活用した若者向けの告知を行いました。また、鍋を試食していただいた方に京野菜の認知度アンケートを実施し、京野菜の現状を調査しました。

プロジェクトの成果と学び

イベントでの鍋の提供目標を100杯分としていましたが、結果的には2時間半で目標の100杯を達成し、最終的には110杯ほど提供することができました。

イベントに参加していただいた方からは「普段食べている野菜よりも香りが強く感じる」「金時にんじんの色が鮮やか!」「京野菜は値段が高いから、なかなか手を出せない」など様々な声をいただきました。

アンケートでは「京野菜の食べる頻度」と「今回の京野菜を使った鍋を試食したうえで今後購入してみようと思ったか」の2点を調査しました。「京野菜の食べる頻度」については「1週間に1回以上を食べる」が46%を占めていました。また、インタビューの中で京野菜が安くなっているタイミングや青果市場で購入することが多いという声もあり、毎日食卓に並ぶことは少ないと考えました。「今回の京野菜を使った鍋を試食したうえで今後購入してみようと思ったか」については「購入したい」が約86%を占めており、改めて京野菜の美味しさや魅力が伝わり、少しでも興味を持ってもらうことで普及に繋がったのではないかと感じました。

また、今回の活動で関係各所にお話を伺いに行くなどの行動力、積極性やイベントに必要な準備物や購入依頼品の数値を決定するためにリスクに対応できるように準備をしなければならないリスクヘッジの重要性を学びました。イベントを開催するためには念入りな打ち合わせが必要でしたが、現場でシミュレーションをすることでより具体的な計画をまとめることができること、仲間との意思疎通が重要であることを学び、イベント運営の難しさを実感することができました。

京野菜の普及活動を通して京野菜の市場価値や産業化に伴う特性の違い、特に山科なすや九条ねぎなどについて理解を深め、普段では学ぶことができないことを学ぶことができ、新たな知識を得られました。

今後の展開

今回のプロジェクトで京野菜の魅力などは伝わったと感じたのですが、アンケートの結果を通して京野菜を食べる頻度がまだ少ないと感じました。そのため、これからも京野菜の魅力発信し、より身近に感じてもらう必要があると考えました。今後は、このプロジェクトを後輩に受け継いでより多くの人々に京野菜の魅力を知ってもらい、京野菜の食べる頻度を増やしていく活動をしていきたいと考えています。



イベントの様子1



イベントの様子2



山科なす農家さんにお話を聞いている様子

■ 学まちチャレンジ!プロジェクト

「やましなエコバック」で山科地域をもっと楽しく!美しく!

報告：えしかるず橘

プロジェクトの内容

本プロジェクトは、近年話題となっている「エシカル消費」をテーマに山科地域の住民に地域の魅力を再認識してもらうとともに、住みやすいまちの担い手となってもらえるような啓発活動を実施しました。

本プロジェクトの目的は、エシカルが目指す「人・社会」、「環境」、「地域」に配慮した消費行動を促すものです。

(1) 山科地域におけるエシカル消費の担い手をつくる【人・社会】

ワークショップを行うことによって、エシカル消費について理解してもらい、エシカル消費の担い手として実践的に活動してもらい、未来に活動を伝承していく人をつくります。

(2) エコバックを日常的にもつ文化を山科に【環境】

自分の作ったエコバックに愛着をもってもらい、日ごろからエコバックを活用するきっかけをつくります。

(3) エコバックに山科地域の魅力が描かれる【地域】

山科魅力缶バッチ（山科のゆるキャラの「もてなすくん」、山科の京野菜など）の作成を通して山科の魅力を知る、もしくは再確認できるきっかけをつくります。

具体的な活動内容としては2021年度と同様、参加者にスタンプやペンを用いてオリジナルのエコバックを作成するワークショップを実施しました。また、今年度は山科地域の魅力写真を缶バッチにして山科地域の魅力を表現し、エコバックに取り付けてもらいました。山科地域の魅力写真については、事前に山科魅力パネル（数種類の山科の魅力写真とその魅力の説明が書かれたもの）を用意し、魅力を理解してもらったうえで選択してもらい、缶バッチとして作成してもらいました。最後にはアンケートも実施しました。

プロジェクトの成果と学び

無印良品京都山科で実施して、参加人数は約30人でした。今回用意した山科地域の魅力写真は「もてなすくん」、「きよまる」、「京焼・清水焼」、「随心院」、「カワセミ」です。子どもたちからは、「なすびのキャラクター見たことある」「かわいい」「見てみたい」「いってみたい」などの声を聞くことができ、山科について興味を持ってもらえたのではないかと感じました。また、保護者の方からも、「（山科地域の魅力について）知らなかった」「山科にはこんなものがあるのか」などの声があり、山科への関心が高まったのではないかと感じています。アンケート項目には、今回のイベントを通して、エコ環境について興味を持ったか、山科について興味が深まったか、作ったエコバックを使ってみようと思うか、などを記載しましたが9割の方が全ての項目で「はい」と答える結果となりました。実際に子どもたちからも「楽しかった」だけでなく、「学校に持っていく」「使いたい」と言ってもらえることができ、とても意味のあるワークショップになったのではないかと考えています。

今後の展開

2021年度に引き続き、多くの地域の方と関わり、どうすれば楽しんでもらえるか、参加してみたいと思えるかななどを考える中で、企画力や子どもたちとのかわり方、コミュニケーション能力を得ることができたと考えています。また、缶バッチワークショップを通して、私たち自身も山科地域の魅力を再確認できました。今後も新たなメンバーを募集し、エシカル消費の視点からイベントを考えていきたいと思っています。



■ 学まちチャレンジ!プロジェクト

楽しくしっかり学ぼう!!

報告: OSJ 橘

プロジェクト内容

「OSJ橘」は、地域連携活動に関心を持つ京都橘大学文学部日本語日本文学科書道コース有志の学生による団体で、子どもたちに書道に楽しく触れてもらうために結成されました。イオンタウン山科榎辻や大宅児童館、たちらボ山科にて地域に住むお年寄りから子どもを対象にイベントを企画、運営しています。

今年度は書道教室のような企画や筆や色付きの筆ペンを使って色紙・うちわ・栞に好きな文字を書いてもらう企画、紙コップで作った風鈴やポスターカードに好きな文字や絵を書く企画など様々なイベントを実施しました。対象者に合わせて指導方法を変えながら、OSJ(おもしろい・しっかり学べる・字が上手くなる)を達成できるよう活動しました。

- ・8月20日「書道で夏の思い出をつくろう」イオンタウン山科榎辻 (参加者40名)
- ・8月22日「大学生といっしょに夏のものづくり体験を一緒にしよう!」大宅児童館 (参加者65名)
- ・9月～1月(計5回)「大学生と一緒に書道を楽しく学ぼう」たちらボ山科 (参加者計12名)
- ・12月28日、29日「大学生と一緒に書道を楽しく学ぼう～12月は書初め練習会!!～」たちらボ山科 (参加者計17名)

プロジェクトの成果と学び

イベント参加者からは「とてもおもしろかった」「書道を学ぶ機会が少ない中で良いイベントをしているね」「小さな子どもが書いている姿を見るとほっこりする」などのお言葉をいただきました。幅広い世代の方に楽しんでいただき、書道を通して世代を超えた交流ができたと思っています。

また、企画への参加者を増やす取り組みとして、地域の小学校にチラシ配りを行いました。また、大宅児童館、イオンタウン山科榎辻、山科区役所との繋がりを活かし、チラシを配架していただきました。2019年に先輩方が立ち上げたOSJ橘ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により一度活動が途絶えてしまったため、今年度は連携先を作るという目的と、定期的に活動するための土台作りを目的に活動しましたが、チラシ配りを通して、青少年活動センターや特別支援施設、児童館などの新たな連携先を作ることができました。子どもに指導する経験が少ない学生もいましたが、活動をととして、子どもとの接し方や教え方を学ぶことができ、教員をめざす学生にとって大変良い経験となりました。

今後の展開

今回の取り組みをととして、山科区内に書道教室が少なく、特にマンツーマンで進捗に合わせて指導する個別最適化した教え方は、私たちにしかできない強みだと分かりました。しかし企画への参加人数が少ない時があるため、多くの人に企画を知ってもらい、参加者を増やすことが課題としてあります。参加者を増やす取り組みとして、チラシの配布や掲示、Instagramで毎日投稿も行いましたが、定期的に参加する人は少ない状況です。そのため、チラシ配りとInstagramは継続して行い、新たな連携先での活動を増やしていきたいと考えております。

また、メンバー一人一人のスキルアップも課題であり、活動をしていく中で、その人その人に合った教え方を学び、より書道の魅力を感じてもらえるようにしていきたいです。



■学まちチャレンジ!プロジェクト

京都市山科図書館開館 70 周年☆アニバーサリー・サポートプロジェクト

報告：京都橘大学図書館情報学研究会

プロジェクト内容

京都橘大学図書館情報学研究会（キットケン）は、本が好きで図書館の活動に関心を持つ学生が集まった団体です。私たちは「子どもたちに図書館は楽しい場所と思ってもらう」ことを目標に8月、11月、12月に山科図書館での活動を行いました。まず、子どもたちに図書館という場に興味を持ってもらうために、それぞれの季節や行事ごとをイメージし、折り紙やイラストなどを用いて山科図書館の児童スペースの飾り付けと、子ども向けの絵本や紙芝居の読み聞かせを行いました。また、ヤングアダルト世代を対象としたブックリストを作成し、11月の活動時に山科図書館に提供しました。さらに、山科に伝わる伝承を子どもたちにも知ってもらいたいという思いから、「やましなを語りつぐ会」の方に許可をいただいて、紙芝居を子ども向けにわかりやすくリメイクし、12月に読み聞かせを行いました。

プロジェクトの成果と学び

初回に集まってくださった方は5名ほどでしたが、最終回には20名ほどの方に来ていただき、活動の広まりを感じました。今回のプロジェクトでは、季節や行事を意識して絵本や紙芝居の選書をしたり児童スペースの飾り付けを行ったりというように、子どもたちに関心を持ってもらうための工夫を組み込みました。読み聞かせが始まると、子どもたちは私たちの読み聞かせを楽しんでくれている様子が見られました。しかし、来てくれた子の年齢には合わない絵本を読んだこともあったので、様々な年齢層向けの絵本を準備しておくことの大切さに気づきました。また、11月から山科図書館で配布しているブックリストは好評をいただくことができ、多くの方に手に取っていただいていることを実感しました。

読み聞かせを行ったことにより、本を通じて子どもたちとコミュニケーションを取る楽しさを学びました。しかし、選んだ本の対象年齢が実際に来てくれた子より高かったため、本の内容を理解できない年代の子がいるというケースもあり、絵本の選書の難しさを体感しました。ブックリストの作成においては、普段の学校生活では体験できない編集作業に取り組むことができ、貴重な経験になったと感じています。山科の伝承を題材にした紙芝居をリメイクする過程では、数多くの山科の伝承について理解を深めることができ、また、山科の伝承を語り継ぐために活動されている方々がいることも知ることができました。この活動を行うなかで、私たちが想定していた以上に地域の方々に関わらせていただく機会があり、このことも私たちにとって大きな経験になりました。

今後の展開

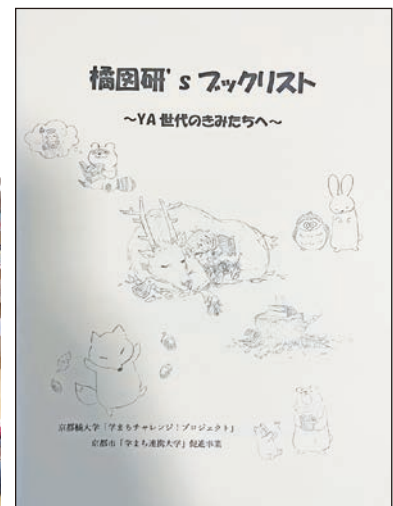
図書館に来館してくださった方には楽しんでいただけたのですが、まだまだ本や図書館に苦手意識を持つ人も少なくないことを感じました。そのため、今後も山科図書館と連携して、本と人とを繋げられるような活動を推進していくとともに、今回、私たち主導では実施できていなかった宣伝や告知というようなより多くの人に興味をもってもらうための活動にも取り組んでいきたいと考えています。



イベントの様子1



イベントの様子2



ブックリスト

■ 学まちチャレンジ!プロジェクト

京焼・清水焼の魅力を発信しよう!一箸置き絵付けワークショップという可能性を—

報告：京焼・清水焼広め隊！

プロジェクト内容

「京焼・清水焼広め隊！」は、京都市内での地域連携活動に関心を持つ現代ビジネス学部都市環境デザイン学科の学生による学生団体です。8月にホテルエミオン京都清水焼窯元平安玉凰陶苑の展示場にて「京焼・清水焼箸置き絵付けワークショップ」を開催しました。このワークショップは京都を訪れる観光客や修学旅行生・伝統産業を学びたい方に普段使いのできる箸置きを通して絵付け体験をしてもらい、京焼・清水焼の良さや存在を身近に感じてもらうことを目的に学生たちが企画したものです。当日は清水焼窯元平安玉凰陶苑のご協力を得て作成したパンフレット等で参加者に京焼・清水焼の歴史や作成工程を説明したうえで、箸置きの絵付け体験をしていただきました。

年代を問わず、たくさんの方に体験していただくために声かけ積極的に行い、体験中もコミュニケーションをとるように心がけました。また、本ワークショップは8月に5回、11月に嵐電嵐山駅はんなり・ほっこりスクエアで3回、12月に大学内のイベント「冬灯夜」と交流会、1月にイズミヤショッピングセンター六地蔵店にて計11回開催しました。

プロジェクトの成果と学び

参加者については全11回の開催で、のべ345名の方に楽しんでいただくことができました。初日は体験の流れをつかむことに必死でしたが、回を重ねるごとに会場に合わせた接客対応や京焼・清水焼の作成工程が伝わるシート作成、体験内容にラッピング用紙への絵描きを追加するなど工夫を取り入れました。その成果として、実施後のアンケートでは「とても楽しかった」「楽しく京焼・清水焼について学びました」「思い出を形に残せて良かったです」などの声をいただき、皆さんに楽しんでいただくことができました。また、伝統産業に触れる機会を求めている人がいるものの、気軽に親しむ機会が少ないということを知りました。今回のような気軽にできるワークショップはこのような課題を解決する場になるのではないかと思います。

今回の取り組みをとおして、学んだことは二つあります。一つ目は清水焼の職人の方との交流の中で清水焼の価値や制作の大変さを学びました。二つ目は、実際にワークショップを開催して人と交流することの楽しさや大切さ、学んだことを人に伝えることの難しさ実感しました。貴重な体験をたくさんすることで成長することができました。

今後の展開

今回の取り組みを通して、伝統産業に触れる機会を求めている人がいるものの、気軽に親しむ機会が少ないということが分かりました。そこで、このワークショップが場所や年代を問わず様々な場面で開催する事ができる点から、マニュアルを作るなどして誰でもこのイベントを開催できるような仕組みを検討しています。



完成した作品



イベントの様子



体験中の様子

■学まちチャレンジ!プロジェクト

大学生が教えるケガ予防教室

報告：スポーツリハビリテーションサークル

プロジェクト内容

本プロジェクトでは、運動部に所属する中学生に対して、スポーツ障害の予防に対する知識や自己管理能力を身につけてケガ予防やパフォーマンスの向上につなげることを目的としました。地域の中学校に広報、募集を行い、教室開催前後における体力測定会および指導を大学内施設（体育館）において10月と12月の2回実施しました。さらに1回目と2回目の間に3度、中学校体育館へ訪問し、指導内容が正しく実践できているか確認するためにスポーツ現場における助言・指導を行いました。

○参加人数

大宅中学校の生徒37名（男子バスケットボール部22名、女子バスケットボール部7名、女子バレーボール部8名）、中学校顧問・指導者5名

○実施体制

スポーツリハビリテーションサークルに所属する理学療法学科学生9名

○実施内容

メディカルチェックによる自分の強み・弱みの把握、テーピング指導、ストレッチ指導、トレーニング指導

プロジェクトの成果と学び

○中学生からの意見・感想

・アンケートの結果、本プロジェクトに参加したすべての中学生が部活をはじめとする競技活動で役に立つと回答。また、約8割の中学生がまた企画してほしいと答えてくれました。

・「楽しかった」、「わかりやすい指導だった」、「ためになった」といったポジティブな感想が多く見られ、好評이었다と考えます。

・今回の教室での内容を部活や家で実践したり、活用したりすることで、自らが主体となってスポーツ障害予防、身体機能向上に努めたいとの声が多く聞かれました。

○生まれた連携や地域での活動の広がり

今回の活動を通して、学生と地域の中学生が交流することができました。また、本学学生の活動を地域の中学生や教員の方々に知っていただく機会となりました。

本プロジェクトをとおして、授業で学んだことを中学生に教えることの難しさを学びました。できるだけ医療用語を用いず、中学生にもわかりやすい言葉を選ぶように工夫しました。また、自宅や部活動の中で継続的にプログラムを行えるよう参加者が日常生活で取り入れやすい形態にアレンジすることの大切さを学びました。参加者にとって有益な内容となるようなメニューを提供することと、参加者が楽しめるプログラムとすることを両立させることの難しさも学びました。

今後の展開

今回の活動は大宅中学校を対象として活動を実施しました。今後この活動を一つの学校の生徒のみで実施する場合は学生である私たちが学校に出向くことによってよりプロジェクト活動を実施しやすくなるのではないかと考えます。また、より多くの人にこの取り組みを知ってもらうために、活動内容を広く発信し、他の中学校にも対象を広げて実施することも検討していきたいと思います。



■ 学まちチャレンジ!プロジェクト

映画・レコード鑑賞会～あの頃の思い出をもう一度語ろう!

報告：まちづくり研究会

プロジェクト内容

本プロジェクトは、コロナ禍で高齢者の方の居場所が少なくなっているという地域課題を知ったことから、高齢者の方が楽しく交流できるイベントを企画しフリースペース（山科区にある地域住民の居場所）の一つ、ふれあいルーム「絆ひろば」で実施しました。レコードプレイヤーで曲を流し、当時のなつかしい歌謡曲を聞きながら昔の思い出話に花を咲かせました。また、高齢者の社会的孤立予防、地域の居場所の促進、山科にあるフリースペースの活用、多世代交流の場、社会福祉協議会などとの連携を目的として現在開かれているフリースペースを実際に訪れ、フリースペースの実態調査も実施しました。

プロジェクトの成果と学び

10月15日、12月17日にレコード鑑賞会、11月19日に映画鑑賞会を山階南小学校のふれあいルーム「絆ひろば」で実施しました。参加人数はのべ67人と多くの方に参加していただきました。

レコード鑑賞会では「すごく楽しかった。また来たいと思った」「いろんな方との交流ができ、いろんな話を聞けるため癒された」「昔のことを思い出して懐かしかった」などの感想をいただきました。映画鑑賞会では「昔より楽しんで観ることができた」「吹き替えのおかげで映画に引き込まれてしまった」などの感想がありました。参加者の方が見られていた当時の映画は、英語音声の日本語字幕というスタイルばかりだったようで、今回は音声・字幕共に日本語で上映したので、登場人物の心情の変化なども分かりやすく昔より面白かったという意見が多かったのではないかと思います。開催場所であるふれあいルーム「絆ひろば」は、普段から高齢者の方が利用されていますが、鑑賞会の後のアンケートで、参加された方の3分の2以上がこのフリースペースを初めて利用したということが分かりました。以前から利用されていた方からは「想像以上に多くの参加者でびっくりしている」や、初めて利用した方からは「今後も機会があれば利用したい」などの声をいただきました。山科には13カ所のフリースペースがありますが、現在フリースペースとして開いている場所は4カ所しかないことが調査を通してわかりました。フリースペースには高齢者施設や病院を利用しているところもあり、コロナ禍でそれらの利用が難しくなっているのが現状です。

コロナ禍で私たち学生も人と交流する機会を失っていたので、地域の方との交流の機会はとても貴重なものでした。レコードや映画の鑑賞会を楽しんでいただけたことから昔使われていたものを再用することは需要があることがわかりました。

今後の展開

コロナ禍で高齢者の方の居場所が少なくなっているということが課題としてあげられます。またフリースペースの認知度もそれほど高くないことがアンケートを通してわかりました。これらのことから、今後コロナ禍でも高齢者の方が集まり交流ができる方法を考えていく必要があると感じました。今回の企画で社会福祉協議会と連携して進めることができました。この繋がりはまちづくり研究会の中で後輩へ受け継ぎ、今後も高齢者の居場所づくりに協力できたらと思います。



レコード鑑賞会の様子



映画鑑賞会の様子 1



映画鑑賞会の様子 2

■学まちチャレンジ!プロジェクト

和太鼓をドンドン広めよう!!

報告：和太っ鼓たちばな

プロジェクト内容

京都橘大学和太鼓部の有志で結成した和太っ鼓たちばなは、体験イベントを通して、和太鼓や楽器を演奏する楽しさを知ってもらうことを目的とした団体です。

今年度は8月に和太鼓体験会と竹太鼓づくりワークショップ、1月に和太鼓体験会を開催しました。すべてのイベントで和太鼓部による演奏も行いました。8月の和太鼓体験会では、和太鼓の体験を小学生向けに実施しました（親子での参加も可能）。パチの持ち方からレクチャーし、和太っ鼓たちばなが考えたオリジナル曲と一緒に演奏する体験を行いました。また、同じく小学生向けに実施した竹太鼓づくりでは、竹太鼓をシールなどで飾りつけた後、完成した竹太鼓を曲に合わせて自由に叩く体験を行いました。2つの体験会では、両日共通で体験会までの待ち時間に利用できるミニブースを設置し、ペットボトルキャップで作る太鼓ストラップづくり、オリジナルハチマキづくり、太鼓と写真撮影ができるようにしました。

1月の和太鼓体験会では、和太鼓の体験を全世代向けに実施しました。気軽に体験できる試し打ちコースと、これにオリジナル曲と一緒に演奏する体験を加えた曲体験コースを設定し、気軽に和太鼓に触れていただけるようにしました。

プロジェクトの成果と学び

8月8日（月）、8月18日（木）、1月28日（土）の計3回実施、のべ65名（うち子ども39名）の方にご参加いただきました。

8月の小学生向けのイベントでは和太鼓体験や竹太鼓づくりで一度に体験してもらえる人数が限られていたため、ワークショップや写真撮影などのミニブースを設置することにより待ち時間も楽しむことができるような工夫を取り入れました。1月の和太鼓体験では体験会をしていない時間は演奏を行い、通りすがりの方にも興味を持ってもらい、参加してみたいかなような工夫をしました。

初めて太鼓を叩いたという方も多かったのですが、実施後のアンケートやイベント終了後に直接「楽しかった」と言ってもらえたことや、このイベントをきっかけに和太鼓部について興味を持ってもらえたことでプロジェクトの当初の目的を達成することができたと思います。

今回の取り組みを通して、普段中々接することのない子どもからお年寄りまで、幅広い年齢の方々と和太鼓を通して交流することができたことはとても貴重な経験だったと思います。当日スムーズに運営するためには、事前準備の段階で自身の役割を把握することや情報を全員で共有しておくことが欠かせないということを実感しました。また、イベント本番までに何をすればよいのかを考えて、逆算して行動する大切さを学びました。一方でスケジュール通りにならないことや想定外のトラブルが起こってしまった時に、柔軟に対応していく必要もあると分かりました。

今後の展開

今回のプロジェクトを通して、和太鼓部では普段行っていなかった和太鼓体験会などの演奏以外の活動を行うことができました。今回の活動が、和太鼓を少しでも知ってもらえるきっかけになったのではないかと思います。

来年度からも、この活動で苦労したことや学んだことを生かして部活動内でも、和太鼓体験会など演奏以外の活動を行っていきたいです。



イベントの様子1



イベントの様子2



イベントの様子3

■ 学まちチャレンジ!プロジェクト

SUUMOと連携した山科区の魅力発信動画の制作

報告：山科区役所×有志学生

プロジェクト内容

本プロジェクトは、山科区役所および株式会社リクルートの住宅情報サービス「SUUMO」と連携し、山科区役所が実施している移住・定住の促進に関する取組として、山科地域の魅力を伝える動画を制作しました。特に山科に移住しようと考えている世帯に対して、実際に住む際の参考となるような「住民のあたたかさ」をテーマに制作しました。制作した動画はWEBサイト「SUUMO」の山科区特設ページに期間限定で掲載されました。

プロジェクトの成果と学び

【山科の魅力発信動画の制作】

山科の魅力発信動画では、「SUUMO」のデザイナーと研修を行い、デザインやブランディングを学んだ後に、山科の魅力をどのように伝えていくかについてグループディスカッションを行いました。今回の動画では、山科に住んでいる人がどのような夢や希望をもって暮らしているのかをスケッチブックで表現してもらい、インターネットでは見つけることができない生の声を届けることをコンセプトとして制作を行いました。地元の飲食店や公共施設、医療機関、商店会など山科地域の賑わいを担う団体にご協力いただき、これまでにない山科像の発信を行うことができました。

【山科の夢のつづき】

動画制作に並行して、WEBサイト「SUUMO」の山科区特設ページに区民の方々の夢を表示するコーナーを設置するため、街頭インタビューや、山科地域で行われた清水焼の郷まつりや京都山科メディカルフェスティバルなどに参加し、イベント参加者や運営者にヒアリングを行いました。合計100名の区民の方々の夢を聞くことができました。

【学んだこと】

プロジェクトを進めるにあたって、情報共有が不十分で関係者に迷惑をかけてしまう場面もありました。プロジェクトを円滑に進めるためには取材する際のマニュアルを作成することや定期的集まることで情報共有やメンバー同士の意思疎通を図ることが必要だと学びました。

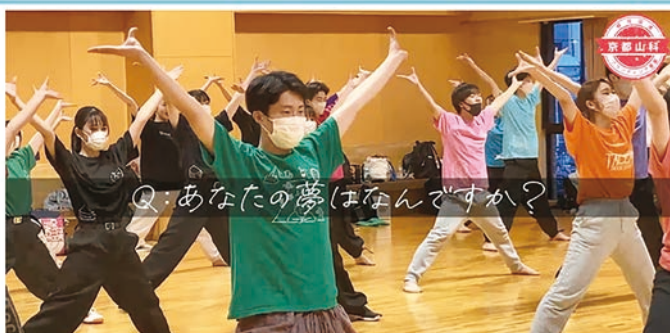
今後の展開

反省点としては山科区を調べる時間がまだ足りなかったように感じました。山科区の魅力をより伝えるために今後も定期的に山科区で街歩きをしようと考えています。加えて山科区に住むより幅広い世代の方々に取材することも必要だと考えています。

今回の動画制作はあくまで多くの人に山科の魅力を伝える際の入り口であり、動画配信と併せて他の方法や様々な団体との連携を模索していく必要があると感じました。

今回のテーマは山科に住む人がテーマでしたが、地域住民の方々の思いや熱意をもっと引き出す必要があると感じました。そのため、ヒアリングのみならず一緒に活動などに参加し、その方が抱える葛藤や歴史を知る必要があると考えています。

▶ 京都橘大学監修ver.



山科の魅力発信動画



動画のリンクはこちら



取材の様子

■ 学まちチャレンジ!プロジェクト

山科地域の魅力企業を発信するマルシェ & オーナメントワークショップ

報告：京都信用金庫山科支店×有志学生

プロジェクト内容

本プロジェクトは、京都信用金庫山科支店（以下、京信という）と連携し、山科地域ならではの産業から地域活性化を目指すプロジェクトを計画実施しました。

山科にはコーヒー豆や焼き芋、アート作品、お菓子などを販売する障がい者福祉団体が多く存在し、それは地域の魅力となっています。このような商品を山科地域の住民に提供することで事業所やその取り組みを紹介し、新しい発見をしてもらいたいと考え、イベントを計画しました。

具体的には、山科地域の魅力企業として、障がい者の雇用を行い、いきいきと社会参画できる環境づくりに取り組んでいる企業を学生と京信が候補を出し合いました。その結果、京都市やましな学園（就労支援B型）と株式会社カイコウ（就労支援B型）に依頼し、2022年12月21日に実施された本学のイベント「冬灯夜」にクリスマスマルシェとして出店していただきました。また、同時開催で学生と京信によるオーナメント作りのワークショップを行ないました。

<クリスマスマルシェ>

足を運んでくださった方々に、ホットワインやコーヒーの無料提供や焼き芋、しおり、石鹸リースを販売しました。

<オーナメントワークショップ>

クリスマスマルシェと同時開催で、オーナメント作りワークショップを行ないました。また、イベント中に設置されたクリスマスツリーに参加者の作ったオーナメントを飾りました。

プロジェクトの成果と学び

<クリスマスマルシェ>

山科地域の障がい者の方々の手掛けた商品を手に取ってもらい、京都市やましな学園と株式会社カイコウについて知ってもらう場を創出することができました。反省点として、どのような商品を扱っているかという活動なのかについて、分かりやすい説明を入れることでより理解していただけたのではないかとということが挙げられました。

<オーナメントワークショップ>

オーナメントワークショップは参加者に透明のオーナメントの中に綿やスパンコールなどを入れてオーナメントを作ってもらいました。65組の参加者に130個ほど作ってもらうことができました。

今後の展開

今回の取り組みを通して京都市やましな学園と株式会社カイコウの取り組みを少しでも知ってもらえたのではないかと思います。今後は形を変えながら京都市やましな学園や株式会社カイコウをはじめ様々な山科の魅力を知ってもらい、地域との関係を深め、発展させていく仕組みを作る必要があると考えています。



オーナメントづくりの様子



準備の様子



マルシェの様子

■ 学まちチャレンジ!プロジェクト

子育て世代の交流を目的としたものづくりイベントの実施

報告：醍醐いきいき市民活動センター×有志学生

プロジェクト内容

本プロジェクトは伏見区醍醐地域にある醍醐いきいき市民活動センターにて、周辺地域子ども・子育て層に向けた、子育ての情報共有や悩みを話せるような居場所イベントを実施することを目的としています。

醍醐いきいき市民活動センターへの最近の課題についてのヒアリングでは、「高齢者の利用が多い」、「子育て層にも利用してもらいたい」ということが分かりました。現状では伏見区醍醐地域の子育て層向けのイベントが少ないため、子育て層に向けた居場所イベントを実施し新たな発見や情報共有の場になれば良いのではないかと考えました。また、これは伏見区第2期基本計画の取組方針2「子育て家庭や子ども・若者が安心して過ごせる居場所づくり」にも合致すると考えました。

そこで、親子で楽しむことができ、親同士で交流し子供同士も遊べるような場所を提供するために「親子でつくるファミリーハンドメイドパーティ」と題したイベントを企画しました。このイベントでは「ハンドメイドブース」と「ほっこり喫茶ブース」の2つのブースを用意しました。「ハンドメイドブース」では、プラバン・リース・エコバック・手形アート・ダンボール迷路を楽しめるブースを設けました。「ほっこり喫茶ブース」では、紅茶・珈琲を楽しみながら親同士や学生、施設の方とお話し、子育ての情報共有や悩みを話せるようなブースを設けました。

プロジェクトの成果と学び

12月17日、1月28日の2日間の実施で、のべ57名の方に参加していただきました。1回目に参加してくださった方が2回目も参加してくださったことがとても嬉しかったです。

参加者からは「馴染みやすい雰囲気がありゆったり過ごせた」「どのブースも子供たちが楽しめる企画だった」「思い出になった」という声をいただきました。

コロナ禍で人との交流が少なくなってしまった方も親同士や施設の方などの交流する機会が新たな居場所を作ることにつながるのではないかと考えます。また、醍醐いきいき市民活動センターのSNSを広めることができ、その結果、新たなイベント情報や施設の情報などが共有され、施設利用のリピーターを獲得することにつながることができました。

このプロジェクトを通して、地域の施設の方と交流することで、今まで知らなかったまちづくりの仕組みや、地域イベントを知ることができ、さまざまなイベントに参加させてもらうきっかけになりました。

次に子育て層の親子と関わることで親御さんが今どのようなことについて悩み、未来にどのような期待をしているのかということを知ることができました。

今後の展開

参加者の声から得た課題は、コロナ禍でいろいろなイベントが中止になっていくことから、親子で過ごす居場所がだんだんと少なくなっていることでした。いただいた意見から、小規模のイベントを各地域で行うことがいいのではないかと考えました。これにより人を分散でき、子育て層の方の悩みも改善できるのではないだろうかと考えます。

また、醍醐いきいき市民活動センターでは子育て層の利用者が少ないという課題があります。そこで子育て層の方も参加したいと思ってもらえるようなイベントを開催することで世代を超えた交流が生まれ、課題の解決につながるのではないかと考えています。



イベントの様子1



イベントの様子2



イベントの様子3